

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 27 年前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	伊藤 美菜子	会員番号	33869
申請者の 所属・職名	慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室 博士課程 3 年		
出席会議名	Brain 2015		
発表論文 タイトル	Bruton's tyrosine kinase(BTK) is an essential component for NLRP3 inflammasome activation and a potential therapeutic target for inflammation after ischemic brain injury		

実施結果: Brain2015 は 6 月 28 日から 7 月の 1 日までカナダのバンクーバーで開催され、脳梗塞やアルツハイマーなどの脳の疾患に関して発表されていました。日本でも脳梗塞に関する学会はありますが、非常に臨床よりで基礎研究の発表の割合が少ないのですが、Brain では私のような医師ではなく基礎研究にしか携わっていない人にも楽しめる学会でした。私自身、脳梗塞と免疫について興味をもって研究しているので、自分の研究内容に近いセッションを聞いていました。2 日目の朝に行われたセッションでは Iadecola 先生が脳梗塞と腸内細菌との関与について発表されていました。脳梗塞において $\gamma\delta$ T細胞からの IL-17 が神経傷害性サイトカインであり脳梗塞後の炎症を拡大させることが報告されていますが、腸内細菌の違うマウスや抗生物質を使って、脳梗塞時の脳内への $\gamma\delta$ T細胞の浸潤の違いについて研究されていました。私は免疫学の教室に所属していて、普段は脳内のマクロファージや T 細胞などの解析しかしておらず、アセチルコリンに関するデータや、血液脳関門の強度に関するデータなど、学会に参加して初めて見るものも多くて非常に勉強になりました。

私は Bruton's tyrosine kinase(BTK)というキナーゼが NLRP3 インフラマソームの活性化に必要であり、BTK の活性化を阻害することによって脳梗塞体積や、神経症状が改善されたという研究成果を発表しました。初めての海外での国際学会ということもあり、積極的に参加者の方と交流することができませんでした。次の機会があれば、もっと海外の方と英語でディスカッションしたいと思います。また、Brain の学会で免疫学の話をするためのイントロダクションの不足など課題も多くあることに気づくことができて大変勉強になりました。

最後になりましたが、このような機会に援助してくださった免疫学会、Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に感謝いたします。ありがとうございました。